

M情報
9月

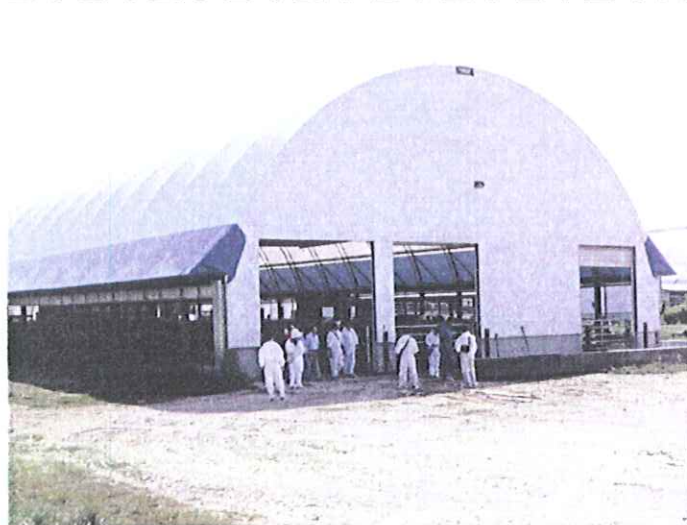
テント生地の牛舎 ～USA視察 夏～

S



Jeff Heyes Dairy Farm
2008年建造 経産牛210頭飼養

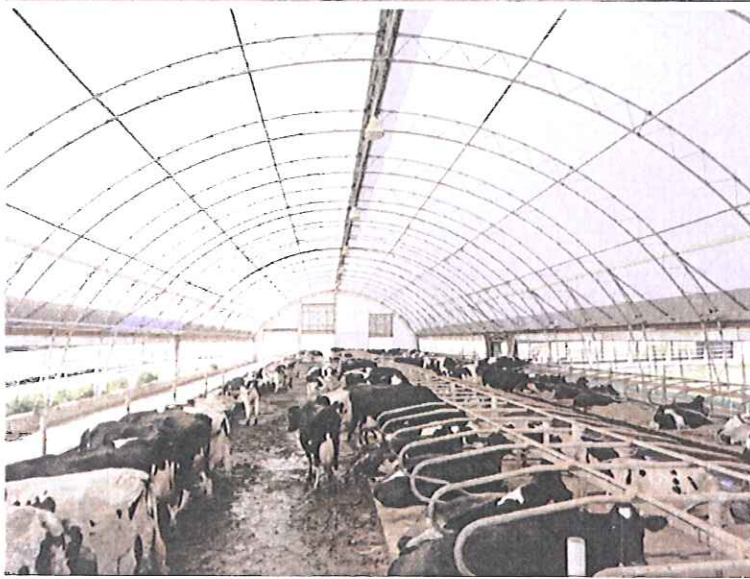
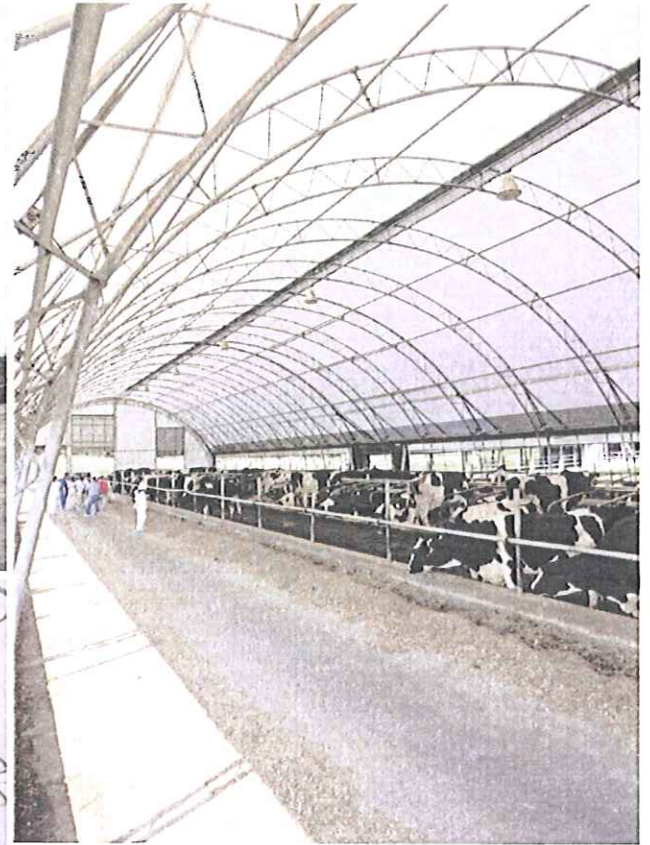
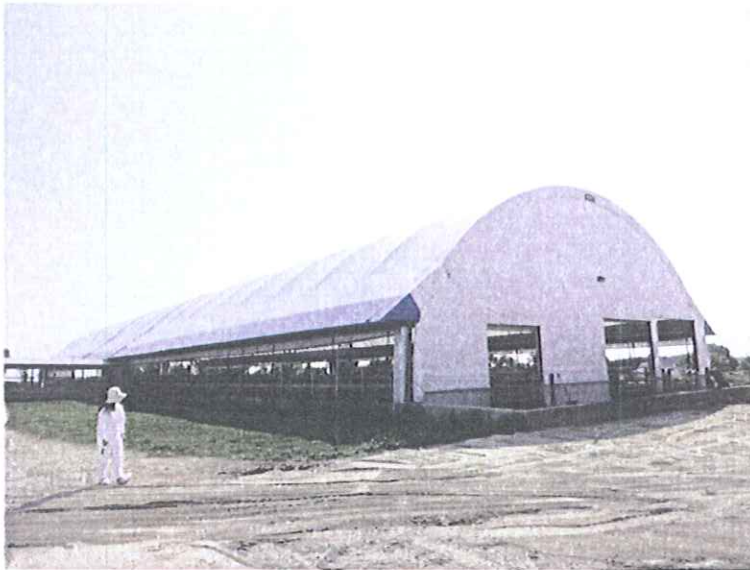
手前が3口ウシングルフリーストール牛舎
真中がミルクングパーラー
奥が2口ウシングルフリーストール牛舎



2口ウシングル牛舎 60頭飼養 + 乾草貯蔵
幅18.6m 長さ63.6m 高さ10.5m 軒高3.6m
牛舎上屋のみで14万ドル



牛舎内部 乾乳群 分娩房 フレッシュ群
夏の暑さが一番の懸念材料でしたが、明るい木陰
に入ったような感じ



3口シングル牛舎 搾乳牛150頭飼養
幅21.6m 長さ78m 高さ10.5m 軒高3.6m
牛舎上屋のみで16万ドル

	屋外	屋内
気温	34℃	31℃
湿度	43%	48%

<特長>

- ★資材自体が比較的安価
- ★確認申請の必要なし(建築費も安価)
- ★固定資産税もかからない

しかしアメリカでは建築コスト全般が日本に比べ非常に安価なので、このテント生地の牛舎のコストメリットは日本に比べると小さくなく、アメリカではそんなに流行るものではなさそうだという話です。

今回の訪問まで“テント生地の牛舎内は果たして暑熱時にはどのようなになっているのか”が一番の懸念材料でした。しかし牛舎内に足を踏み入れた時の感想は「明るい木陰にいるような」感じで、熱がこもっているような感じは一切ありませんでした。D型ハウスのようにトタンなどを使っていないので輻射熱の影響をうけないことが大きいと思われます。夏場の風向きを考慮し、自然換気を十分おこなうことは無論云うまでもありません。第一印象は「こんな牛舎、全然あり!!!」です。

耐用年数については、まだ長い歴史のあるものではないので、築20年くらい経っているものがあるけど…ということです。テント生地は想像以上に丈夫で、よっぽど尖ったもので傷つけないかぎり破けることはなく、15年のメーカー保証もついています。サイズもバリエーションが多く、幅15m~30m、長さはお好み次第です。

搾乳牛舎への使用もいいと思いますが、特にコストメリットの点から、現在十分な乾乳牛舎や育成牛舎をもっていない農場で、それらの新築や増築に向いているなと強く感じました。他にも哺育舎につかえるサイズのものなどもあり、用途は幅広そうです。